

## 社会科学習指導案

2024年6月25日(火) 6限

3年D組(40名)

指導者 大場 将公

## 1 単元名 第一章 現代社会と私たち (1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色

## 2 単元設定の理由

## (1) 教材について

- ・「現代社会と私たち」は、持続可能な社会づくりに向け、「①グローバル化」、「②少子高齢化」、「③情報化」、「④文化」の4つに分けられ、それらが現在と未来の政治や経済、国際関係に与える影響を追究する活動を通して、資質・能力を育成する単元である。現代社会の日本では、様々な課題が山積しており、持続可能な社会に向け、その現状や課題を考察することで、我が国の今後や展望を考え、深めることに適した単元である。
- ・本単元においては、現代社会がかかえる諸課題を、現在と将来の政治や経済、国際関係にてらしあわせ、それらが与える影響などを考察し、持続可能な社会づくりにおいて有効なのかを資料やデータと関連付けたりすることを通して、多面的・多角的に考え、表現することを単元のねらいとする。
- ・日本の地理的知識(空間的広がり)や歴史的知識(推移や変化)に加え、そこで得た見方・考え方をもとに、日本が直面する現状と課題を主体的に考え、多面的・多角的な視点から、未来的思考で課題解決に向け、考えぬく姿を養うことができる教材である。

## (2) 学習者について

- ・本学級の学習者は、社会科アンケートの調査において、「社会の学習が好きであるか」という質問に対して、肯定的に答えた学習者は93%(37名)であった。また、「社会の学習についてどのように感じているか」という質問に対しては、85%(34名)の学習者が「社会の学習は楽しい」と肯定的に回答した。
- ・一方で、社会科の学習について、約15%の学習者が心配や難しさを感じていることがわかる。社会科は好きだが、データや資料を読み取る事を苦手と感じていることや自分の考えをまとめることに困りを感じている事が要因として挙げられる。加えて、自分の意見を発表することに対しては、間違いをおそれたり、自信のなさからやや消極的な姿勢の学習者が見られる。
- ・また、「グループ学習と一斉学習はどちらが自分の学習に役立つか」という質問に対して、95%(38名)の生徒がグループ学習と答えている。理由としては、「わからないところの質問がしやすい」「いろんな人の意見が聞ける」「班で考えを深められる」などの回答が多かった。教え合いなどの活動には積極的に取り組むことができている。他者の意見を聞くことには意欲的な姿勢が見られる。こうしたことから、グループ学習を通して資料やデータを分析し、協働して課題解決に導く力を向上させていきたい。

## (3) 指導について

- ・単元を貫く課題を設定することで、学習者が主体的に公民の学習に取り組めるようにするとともに、現代社会の見方や考え方を学び取ることが必要であることの意義を感じさせる指導をする。
- ・課題分析については、データや資料で読み取ったことをワークシートや思考ツールにまとめ、自分の思考を整理させる支援をする。その情報をもとに小グループでの活動で互いの意見を交流させ、見方や考え方を発信、共有させることで多種多様な考えを認め合う大切さを醸成する。
- ・自らの学びを、振り返りシートで積み上げ、考えの広がりや関連に気付く、学ぶことの必要性が高まることを促す。

# 単元プランシート( 社会科 3年)

実施時期 6/25

単元名	現代社会の特色と私たち (1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色	
単元の目標	<p>現代社会の特色について、位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力をつけることができるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の特色として「少子高齢化」・「情報化」・「グローバル化」などが見られることを理解出来るようにするとともに、諸資料から課題解決に向けた情報を効果的に収集しまとめる技能を身につける事が出来るようにする。</li> <li>・「少子高齢化」・「情報化」・「グローバル化」などが現在と未来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。</li> <li>・文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。</li> <li>・現代社会の課題に対して、持続可能な社会をつくるために必要な見方や考え方を主体的に追及し、現代社会に関わろうとする態度を養う。</li> </ul>	
評価 規 準	知・技	<p>①日本が持続可能な社会を作っていくうえで、グローバル化や少子高齢化、情報化、文化などと向き合っていかなければならないことを理解している。</p> <p>②データや資料をもとに課題解決に必要な情報を効果的に収集する技能を身につけている。</p>
	思・判・表	<p>①日本の地理的位置や世界との空間的な広がりや時代推移や変化などに着目し、グローバル化や少子高齢化、情報化、文化などが現在や未来、また、政治や経済、国際関係などに与える影響を多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
	主体	<p>①日本が行っている持続可能な社会づくりを考察する中で、見つけた課題を主体的に考え、現在だけでなく未来的思考を持って現代社会に関わろうとしている。</p>

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1時)	<p>・単元を貫く課題の設定 「これからの日本で、私たちはどのように生きていくべきなのだろうか？」</p> <p>・現在の日本にある課題やこれから訪れる社会(グローバル化・少子高齢化・情報化)に関する未来的予測の資料やデータをエキスパートに分かれ収集する。</p> <p>【課題把握】【情報・資料読解および収集】</p>			①
2次 (2時)	<p>・1次で得たデータを共有し、グローバル化の長所や短所、今後の展望について資料を抽出し、分析する。</p> <p>・貿易額の推移や訪日外国人などの資料をもとに今後の日本に及ぼす影響や変化について多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>【課題追究】【資料読解】</p>	②	①	
3次 (3時)	<p>・政府の方針や新聞記事をもとに、現在の日本が置かれている少子高齢化の状況を理解する。</p> <p>・1次で得たデータを共有し、少子高齢化が進行することでの長所や短所、今後の展望について資料を抽出し、分析する。</p> <p>・分析したものを各自治体や国が行っている事例に照らし</p>	②	①	

	合わせ, 多面的多角的に検証し, 解決策を提案する。 【課題追究】【資料読解】			
4次 (4時)	・1次で得たデータを共有し, 情報化の長所や短所, 今後の展望について資料を抽出し, 分析する。 ・内閣府の作成した「Society5.0」に関する映像を視聴し, それにともなう情報社会がもたらす光と影の側面を考察し, 表現する。 【課題追究】【資料読解】	②	①	
5次 (5時)	・科学技術の発展や宗教・芸術などの文化が私たちの生活に与える影響について理解する。 ・日本にある伝統文化や年中行事をどのように継承していけばよいかを考察し, 表現する。【ワークシート】	①	①	
6次 (6時)	・身近にある国際文化や世界に広がる日本文化をまとめ, それが及ぼす影響を考察し, 表現する。 ・多文化共生社会を目指すためにはどのような視点や考え方が必要になってくるのかを理解する。【ワークシート】	①	①	
7次 (7時)	・単元のまとめ ・学習したことを踏まえて, 単元のまとめを作成する。 【課題をまとめ表現する】		①	①

●・・・学習状況を見取り, 学習改善につなげる評価

○・・・観点別学習状況の評価につなげる記録に残す評価

評価基準	
B	A
現代社会の課題が現在の政治, 経済, 国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し表現出来ている。	Bに加え, 他者の意見や詳細な考察を自分の考えに取り入れ, 表現出来ている。

様式3 本時の指導

- (1) 本時の位置づけ ( 3 / 7 )  
 (2) 題材名 少子高齢化  
 (3) 本時のねらい

現代社会の特色である少子高齢化の今後について、少子化がもたらす様々な影響を分析し、意見交換する学習活動を通して、少子化に歯止めをかけるための解決策を提案することができる。

(4) 展開

◎は形成的評価

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
5	1. 国の少子高齢化の動きと実情を把握し、ペアで意見交流  2. 本時のめあての確認	○前時までの学習を振り返り、本時のテーマが「少子高齢化」であることを確認する。 ○政府が打ち出している「異次元の少子化対策」と最新の合計特殊出生率や世論調査の結果を示し、ペアで率直な感想を伝え合う。 ○各所で少子高齢化が喫緊の解決必要性課題とされているのを確認する。	
		<b>めあて</b> : 日本の少子化に歯止めをかけるための解決策を提案しよう。	
12	3. 少子化が進展することでの長所や短所を班で資料分析し、各班のジャムボードとワークシートに記入する。	○複数の資料に触れ、短所だけでなく長所にも気づかせるとともに、少子化の進展が自分たちの未来にも大きく影響していることを理解させる。 ○班ごとのジャムボードに長所と短所を整理してまとめる。個人でも、ワークシートにまとめる。	○【机間指導】情報の収集と読み取りについて指導 ○【ワークシート】読み取ったり、意見交換したものをまとめられているか
12	4. 資料とジャムボードを使い少子化に歯止めをかける解決案を策定する。	○各班の資料などを活用し、様々な視点や角度から少子化に歯止めをかけられそうな案を策定する。 ○その際に、どのような視点や角度に重点を置いて考えるかを大切に促す。	○【机間指導】 ○【ジャムボード】
12	5. 各班の考えを発表する。	○google ジャムボードを活用し、各班の考えを1分以内でプレゼンテーションする。	
9	6. 各班が出した案の中で自分が支持する案を振り返りプリントに記入する。	○資料分析によって得られた、少子化の長所や短所を用いるとともに、この課題を克服するための考えを様々な視点や角度から振り返らせる。	◎【解決策の提案】(思考・判断・表現)
		<b>振り返り</b> : 日本でこのまま少子高齢化が進展すると、深刻な労働力不足になり、生産力の低下や産業衰退が起こることが予想される。なので、私は、18歳までの教育費無償化の考えが良いと思います。資料から、子育てに経済的不安をかかえている人が多いことがわかり、この心配を無くすことで少子化に歯止めを書けられるのではないかと考えました。お金の面では膨大な額がかかりますが、長い視点で見ると人口増加や生産性の向上につながられ、少子化に歯止めをかけられると考えました。	